

「宣言力」

主任司祭 晴佐久昌英

現代の教会に最も欠けている力は、「宣言力」だと思う。教会活動の停滞、受洗者数の低迷、信仰生活の倦怠など、いずれもその原因は宣言力の欠如にあるとしか思えない。

「宣言力」とはぼくなり用語で、「ある人を現実に救う言葉を、神の愛と権威によって、明確に宣言する力」のことである。

たとえば、わが子がいじめられて怯えているときに、「大丈夫だ、父さんがついている。おまえは何一つ悪くない。かならず解決してみせるから、安心しなさい」と宣言する力。

あるいは、わが子がひどい成績で自分を責めているときに、「大丈夫よ、何の心配もないわ。どんな成績だろうが、お母さんはそのままのあなたを愛している」と宣言する力。

そんな確固とした「宣言」によってこそ、子どもは安心と自信を取り戻す。「説明」や「叱責」では不可能な事を、一瞬で可能にするのだ。

宣言には、力がある。一人の人間の魂を救うことができる。なぜなら、真の宣言はすべて神からのものだからだ。「大丈夫だ、安心しろ」と言うのも、「あなたを、愛している」と言うのも、実はわが子を愛する神の宣言なのであり、だからこそ、人を救うのである。

よく、「どう宣言していいかわからない」とか「宣言する勇気がない」とか言う人がいるが、宣言するのは神であって、あなたではない。そもそも人間の宣言に人を救う力などあるはずもない。誰かを本気で救いたかったら神の宣言を宣言すればいいのであり、それはだれにでも出来る。福音とは、宣言するものなのだ。

「どう宣言すれば」と言うけれど、必死に愛を求めている人に「神はあなたを愛している」と言うのはそんなに複雑なことだろうか。「勇気がない」と言うけれど、心底怯えている人に「大丈夫だよ」と言うのにそんなに勇気が必要だろうか。まずは自分に宣言している神の愛を信じ、キリストの口となって神から与えられた機会に恐れずに宣言し、宣言力をつけてほしい。

「大丈夫。必ず救われる。私も絶望していたけれど、今は信じる喜びで一杯だ。一度ミサに来てほしい。あなたもきっと、元気になれる。」